

1 西益田地区の概要

(1) 概要

西益田地区は、益田市の西南部に位置している田畑や山林の多い地域です。

面積は約 60km²。益田市では 2 番目に広く、人口 4,096 人。1,730 世帯です。

地域には、小・中・養護学校が各 1 校あり、また、保育園・病院・福祉施設や金融機関、スーパー等もあり、ちょうどいい住みやすい地域だと言われています。そして西益田の特色は、地域内を高津川本流と支流の匹見川が流れていることです。

子どもたちはこの清流日本一に輝く川で、夏には川遊び、冬には堤防での凧上げを楽しんでいます。昭和 50 年代から続いている「清流高津川いかだ流し大会」は今年で 35 回を重ね、地域の一大イベントとなっています。

2 事業の趣旨

全世帯アンケートにより、住民は「高津川・匹見川とその川文化」が地域の重要な資源であり、そこに魅力を感じていて、「それを活用したイベントや活動に積極的に参加したい」という意識を持っていることがわかりました。そこで、「地域力」醸成のフィールドに「川と川文化」を選びました。

西益田の課題である「地域を担う主体的な人づくり」や「地域リーダーの育成」に、この地域資源である「川と川文化」の活用で切り込もうと考えました。

この「川と川文化」は多様な活動が可能ですし、多くの協力者も必要とします。特に子どもたちの体験をサポートするには、技能面だけでなく安全面も含めて支援者が

必要なので、人を巻き込むことができます。地域の人が「川と川文化」の活動に協力することで、地域に貢献した「地域貢献感」を味わい、それが「主体的な人づくり」につながると考えました。このような意図の下で、上記のテーマを設定しました。

3 具体的な取組内容

取組の柱は 4 つでした。

1. 川と川文化の活動を模索する場や会
2. 川文化活用の学習会・研修会
3. プレイゾーン大作戦の具体的取組
4. 成果の実感と、成果のアピール

特に、3 点目の取組は精力的に行い、人を巻き込む努力をしました。具体的には、

・川辺でデイキャンプ	6 人
・活動場所の草刈	43 人
・組立式いかだで流れる	15 人
・いかだづくり・修理	58 人
・高津川いかだ流し大会	●約 1500 人
・高校生の鮎漁体験会	20 人
・小学生の川釣り教室	35 人
・中学生の川流れ	65 人
・高津川の水質調査	8 人
・益養高1ふれあい鮎つかみ	20 人
・小学生の親子が鮎つかみ	45 人
・小学生の川遊び	46 人
・保養小中で川漁体験	160 人
・干し鮎をつくる会	8 人
・小学生の鮎めし会	12 人
・川辺の散歩道の整備	4 人
・鮎料理の会	15 人
・堤防イルミネーション	23 人
・川活動合同ワークショップ	40 人
・堤防凧揚げの試作会	10 人
・堤防凧揚げ大会	●約 220 人
766 人 + ●1500 人 + ●220 人 = 2486 人	

この 2486 人の中に、延べ約 500 名の地域スタッフを巻き込むことができたというのが大きな成果でした。



手作りのいかだで流れます
地元小、中学校のチームは8艇



中学生が投げ網漁の体験をしました
拡げて投げるのは意外と難しいです



保育園、小学校、中学校、養護学校
4校合同で鮎つかみをしました



午前中に作り、午後は高津川堤防
で凧揚げをしました

4 評価と成果

アンケートで把握した地域の方の思いを、
具体的取組へつなげることができました。

かなりの数の具体的取組や実践により、
様々な活動のノウハウを蓄積でき、また、
「川と川文化」の活動に人を巻き込むこと
ができました。特に地域スタッフとして巻
き込んだ延べ約 500 名の方々は、人づくり
につながる人材としてリストアップするこ
とができました。

また、12月に行った「合同ワークショップ
と懇親会」では、子どもたちも大人も互
いの実践の成果を発表し合い、今後の活動
への希望を出し合いました。子どもから大
人までがこの会によってつながり、地域づ
くりの一体感を共有できたことは、特に成
果として挙げられます。このような活動後
の振り返りはとても有効だということが分
かりました。

5 今後の課題と見通し

課題は3つです。①人の発掘、②活動や
アイデアの発掘、③財政面のバックアップ
です。①の「更なる人の発掘」は、対象を
しっかり見定めて工夫をすれば、もっとた
くさんの人を巻き込めると考えます。※工
夫については、実践資料にまとめています。

ただ、もう一步踏み込み、一般的な協力
者というレベルから、「主体的な人づくり・
地域リーダーの育成」につなげていく、こ
こがたいへん難しく、私たちの最も課題と
したところでした。そこで考えたのは、「参
加者や協力者のモチベーションを上げる」
ために、「この方こそ地域リーダー！」と
思われる方に「リーダー認定証を差し上げ
る」という取組でした。認定証の対象とな
った方はとても喜ばれ「これからもがんば
る」と抱負を述べられていました。

(文責：公民館長 内田 誠)